

大阪市地球温暖化対策推進本部
第1回 生物多様性保全推進ワーキンググループ会議
会議要旨

1 日 時 平成29年6月15日（木） 午前9時15分から午前11時05分

2 場 所 環境局ルシアス庁舎 第2会議室

3 出席者

港区役所総務課長、自然史博物館館長（代理出席）、都市計画局企画振興部総務担当課長、環境科学研究センター環境調査担当課長、環境局環境施策部環境施策課長、環境局環境管理部環境管理課長（代理出席）、建設局下水道河川部水環境課長（代理出席）、建設局公園緑化部調整課長（代理出席）、天王寺動物公園事務所動物園担当課長、港湾局総務部総務課長（代理出席）、水道局総務部法務監査担当課長、教育委員会事務局指導部初等教育担当課長（代理出席）

4 議題

（1）「（仮称）生物多様性大阪戦略（たたき台）」について

5 議事要旨

（1）「（仮称）生物多様性大阪戦略（たたき台）」について

資料に基づき、事務局（環境局環境施策部環境施策課）より標記戦略（たたき台）の概要・具体的施策等について説明を行った。主な意見の要旨は次のとおり。

（意見）

- ・ 目標期間が3年間(2020年まで)と短いので、何をどのように取り組むのかが重要である。
- ・ 各所属での取組が生物多様性に寄与しているということを対外的に説明するのは環境局の役割である。
- ・ 緑化重点地区や保全配慮地区における緑化のあり方については、現在「みどりのまちづくり審議会」において議論しているところなので、戦略の記載内容については今後調整が必要。
- ・ 目標のところに数値目標を掲げているが、3年間でPDCAサイクルをどのように回すのか。
- ・ 目標の1つ目に掲げている持続可能な開発目標（SDGs）は多くの分野にまたがるものであり、生物多様性戦略で簡単に取り組めるものではないため、SDGsの代わりに愛知目標を掲げるべき。
- ・ 生物多様性は生活必需品であり、本市としてどのように継続するかを考えて戦略を策定する必要がある。
- ・ 河川は存在そのものが生物多様性と密接に関係しているため、河川整備の際、どのように生物多様性を取り入れるのかを考えていく必要がある。
- ・ 現在実施している取組が生物多様性に貢献していることを認識し、それを市民に広めることが重要である。
- ・ 学校で、水抜き前のプールで実施している生き物調査においても、どのような生物が発見されたかを紹介することで生物多様性に十分貢献することができる。都心部ではヤ

ゴの生息域として、学校のプールは重要な役割を果たしている。

6 会議資料

会議次第

大阪市地球温暖化対策推進本部体制図

生物多様性保全推進WG構成員一覧

「(仮称)生物多様性大阪戦略(たたき台)」の策定スケジュール

資料1 「(仮称)生物多様性大阪戦略(たたき台)」の概要

資料2 「(仮称)生物多様性大阪戦略(たたき台)」の具体的施策一覧

資料3 「(仮称)生物多様性大阪戦略(たたき台)」の具体的施策に関する各区・局等の意見

別添1 「(仮称)生物多様性大阪戦略(たたき台)」

別添2 大阪市における生物多様性地域戦略のあり方について(諮問)

別添3 生物多様性部会 委員名簿